

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (幼) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP1141
2. 授業担当教員	井戸川 敦			
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係	図画工作 I → 図画工作 II の順で履修するのが望ましい。			
7. 講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、保育者・指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現することの喜びを体験する。</li> <li>2. 様々な作品に触れ、子どもたちの生き生きとした表現に共感できる感性を養う。</li> <li>3. 子どもの発達段階における造形の特徴を理解し、場面に応じた援助の在り方について学ぶ。</li> <li>4. 素材体験や題材研究を行い、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。</li> <li>5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、保育者・指導者の立場から考察する。</li> </ol>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>i. 毎時の授業において製作する作品を提出課題とする。</li> <li>ii. 製作・鑑賞に関わるレポートの作成と発表を行う。</li> <li>iii. 最終的には、自己の振り返りとして授業で製作した作品をまとめて提出する。</li> </ol> 以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。			
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 また授業の進行に伴い適宜資料を配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。 <b>【教材】</b> 製作道具・材料についてはオリエンテーション時や事前の授業で指示する。各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの表現に寄り添った造形活動の在り方について考える力がついたか。(学習目標 1・2)</li> <li>2. 子どもの造形表現の特徴に関する基礎的な知識が身につけられたか。(学習目標 3・4)</li> <li>3. 子どもの造形活動を支える上で不可欠な基礎的造形力、技能が身につけられたか。(学習目標 5)</li> </ol> ○評定の方法 授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業への積極的参加 総合点の 20%</li> <li>2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み 総合点の 30%</li> <li>3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等) 総合点の 30%</li> <li>4. 課題 (作品発表、レポート等) 総合点の 20%</li> </ol>			
12. 受講生へのメッセージ	造形指導者として子どもの柔軟な感性に対応していくためには、様々な素材に親しみ、豊かな造形体験が必要である。本講義では造形活動の指導・実践に必要な材料・用具の取り扱いについて理解するとともに、造形の基礎技能の習得を図る。また、造形活動で用いられる基本的用具 (絵の具・クレヨン等) の扱い方と、材料の特性を活かした多様な表現、また安全指導などについて学んでいく。幼・保・小学校の連続性を視野に入れた絵画・造形の発達段階について理解を深めていく。 <b>【注意事項】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 造形活動で用いられる様々な材料・用具 (絵の具・クレヨン・画用紙・粘土等) は、各自が準備すること。授業内で随時伝えていく。</li> <li>2. 絵の具などを使用するため、汚れてもよい服装で出席すること。</li> </ol>			
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等 (メールなどで事前にご連絡ください)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 造形表現の構造・発想について		事前学習	教科書を一通り確認しておく。 図画工作や美術の授業を振り返り、印象深かった出来事について考える。またそれを踏まえ、自身が保育者になった際、子どもたちが豊かに製作できる環境設定を考える。
			事後学習	自身のこれまでの制作活動を振り返り、考えたこと感じたことをまとめる。
第 2 回	◇ 表現の基礎 素材の特徴と組み合わせについて (講義+演習)		事前学習	教科書 pp. 9-11 を読む。 これまでの描画経験を振り返り、描画の基本について考える。基本的な道具の使用法を復習し、今後表現するための基盤とする。
			事後学習	授業で学んだ内容を振り返り、各自で準備したモチーフを描いてみる。
第 3 回	◇ モダンテクニックによる表現 I (デカルコマニー・糸引き絵・フロッタージュ) (講義+演習)		事前学習	絵の具を用いた制作活動の経験を振り返り、印象深かった作品を書き出す。作品製作に向けて、自分らしい色彩や表現について考え、構想をまとめる。

		事後学習	デカルコマニー・糸引き絵・フロッタージュによる製作活動を振り返り、同様の技法が用いられた美術作品について調べる。また上記の技法を使用し作品を製作する。
第4回	◇ モダンテクニックによる表現 II (スパッタリング・ドリッピング・吹き絵) (講義+演習)	事前学習	筆を用いない描画の経験を振り返り、印象深かった作品を書き出す。作品製作に向けて、モチーフや資料を収集する。
		事後学習	スパッタリング・ドリッピング・吹き絵による製作活動を振り返り、同様の技法が用いられた絵本作品について調べる。また上記の技法を使用し作品を製作する。
第5回	◇ モダンテクニックによる表現 III (スタンピング・クレヨンステンシル) (講義+演習)	事前学習	教科書 pp. 105-106 を読む。 作品製作に向けて、身の回りにある自然物の有機的な形態に着目し、構想を練る。またクレヨンを用いた製作活動の経験を振り返る。
		事後学習	スタンピング・クレヨンステンシルによる製作活動を振り返り、技法と表現の関係について考える。また上記の技法を使用し作品を製作する。
第6回	◇ モダンテクニックによる表現 IV (パチック・にじみぼかし・コラージュ) (講義+演習)	事前学習	教科書 pp. 67-70 を読む。 筆を用いない描画の特性について考える。作品製作に向けて、幻想的な表現による画面をイメージし構想を練る。
		事後学習	パチック・にじみぼかし・コラージュによる製作活動を振り返り、子どもの造形活動における見立ての重要性について考えたこと、感じたことをまとめる。また上記の技法を使用し作品を製作する。
第7回	◇ 紙版画 紙を素材とした版画表現の研究 (講義+演習)	事前学習	紙版画を作るにあたって、その材料や参考作品、また造形活動としての利用法についてアイデアを巡らす。また実際に作るにあたっての、安全面での考慮や製作方法についてまとめる。
		事後学習	これまでの版画による自身の製作活動を振り返る。また関連する様々な版画技法について調べ、今回学習した技法を使用し作品を製作する。
第8回	◇ ポップアップカードによる表現 I (バクバクカード・平行ボックスカード) (講義+演習)	事前学習	教科書 pp. 71-72 を読む。 ポップアップカードについて調べ、作品の構想を練りながら、製作に使用できそうなイメージを収集する。また実際の現場での、造形活動の構想を練る。
		事後学習	ポップアップカードについて復習する。様々なポップアップカードのアイデアを書き出し、同様の技法が用いられた絵本作品について調べる。また今回学習した技法を使用し作品を製作する。
第9回	◇ ポップアップカードによる表現 II (窓のある絵、ポケットのある絵・折って開く絵) (講義)	事前学習	ポップアップカードについて調べ、作品の構想を練りながら、製作に使用できそうなイメージを収集する。
		事後学習	窓のある絵、ポケットのある絵・折って開く絵による造形活動を振り返り、出来上がりのイメージとともに記録する。
第10回	◇ ○○シアターの研究と実践 ○○シアターの研究と、紙皿シアターによる実践 (講義+演習)	事前学習	紙皿シアターを作るにあたって、参考作品や造形活動での活用法について調べる。また、その題材となる昔話について調べまとめる。
		事後学習	子どものイメージを刺激する、○○シアターの活用方法や意義について調べまとめる。また実際に作品を製作する。
第11回	◇ オンライン美術館 Google Arts & Culture を利用した造形活動の研究 (講義)	事前学習	教科書 pp. 73-75 を読む。 中学校・高等学校において使用していた美術の教科書を見返し、好きな作家・作品について調べる。その際に、作品を好きだと感じる理由についても考える。
		事後学習	Google Arts & Culture を使用し、興味のある作家の作品について考えたこと感じたことをまとめる。また、キャプションの書き方

			について調べる。
第12回	◇ 工作活動(立体) I 題材の設定・製作の準備・構想と製作 (講義)	事前学習	教科書 pp.75-77 を読む。 任意の素材を使用した工作活動にはどのようなものがあるか調べ、製作のイメージを広げる。
		事後学習	実際に製作する造形物についての製作方法やデザイン案をまとめる。
第13回	◇ 工作活動(立体) II 素材についての研究 (講義+演習)	事前学習	教科書 pp. 77-79 を読む。 空き容器など身近にある素材に目を向け、造形素材・材料としての利用の可能性について考える。身近な材料を利用した作品製作に向けて、モチーフに関する資料を収集する。
		事後学習	廃材となる素材を利用した製作活動を振り返る。他の学生が利用していた素材にも着目し、内容をまとめる。また今回学習した技法を使用し作品を製作する。
第14回	◇ 製本作業 I 製作のまとめ (講義+演習)	事前学習	色々な製本の方法を調べる。また書籍の各部の名称についても調べ、まとめておく。
		事後学習	これまでの製作活動を振り返り冊子にまとめる。また表紙の図案を考え製作する。
第15回	◇ 製本作業 II 製作のまとめと発表と講評 (講義+発表)	事前学習	教科書 pp. 84-86 を読む。 作品発表に向けての準備をする。これまでの製作のポイントについてまとめて発表に備える。
		事後学習	図画工作 I での自身の製作活動を振り返りながら、自分の造形表現の個性について考える。冊子(自身の作品集)の提出に向けて、作品をまとめる。